



戦後日本の歴史と憲法の岐路に立って

2017年10月5日 九条の会

安倍首相は、臨時国会冒頭に解散し総選挙に打って出ました。野党による憲法に基づく再三にわたる臨時国会開催要求を無視しながら森友・加計問題をはじめとする疑惑隠しをはかる憲法破壊の暴挙です。重大なことは、首相が、この総選挙を、政権延命をはかるにとどまらず、安倍政権への批判の高まりのなかで強行のメドが危うくなった憲法「改正」実行のお墨付きを得る好機と位置づけたことです。

自民党は、選挙の重点公約のひとつに、憲法9条に自衛隊を明記することを中心とする改憲を掲げました。過去に改憲の野望を抱いた首相は少なくありませんが、国民の批判を恐れ選挙戦ではそれを正面から争点にした例はありませんでした。自民党が改憲を旗印に選挙を戦うのは結党以来はじめてのことであり、容易ならぬ事態です。しかも解散直前になって、安倍政治を変えることを標榜して希望の党が旗揚げし、改憲勢力の一翼として登場しました。この結果、たとえ国民の批判を浴びて自公勢力が後退しても、希望の党や日本維新の会などと合わせ改憲勢力が3分の2を占める危険性が高まりました。そうした事態を許すならば、改憲派が2018年通常国会での改憲発議をねらってくることは間違いありません。

9条への自衛隊明示は、安倍首相の「何も変わらない」という言明に反して、戦後日本が築いてきた「戦争しない国」の転換をもたらすことは明らかです。

もし9条に自衛隊が明記されることになれば、9条の「武力によらない平和」の理念と真っ向から矛盾する「武力による平和」が明示され、9条の根本的改変が起こることは明らかです。

また、自衛隊が憲法上認められることで、これまで「自衛隊は9条2項が保持を禁止している『戦力』ではない」というために政府が積み上げてきた自衛隊の活動を制約する解釈の撤回、さらなる空文化が起こります。しかも、この改憲で合憲とされる自衛隊は、違憲な戦争法によって海外での武力行使を認められた自衛隊なのです。

安倍首相は、北朝鮮問題での国民の不安を煽って改憲へと誘導していますが、軍事的圧力や9条改憲では北朝鮮問題を解決することはできません。それどころか、逆にアメリカの軍事行動への加担により、朝鮮半島での軍事衝突の危険を増大させることとなります。朝鮮半島とアジアの平和は、憲法9条の原則に基づく外交によってこそ、実現できるのです。

総選挙は、改憲諸党の前進を許し安倍9条改憲に道を開くのか、それとも阻むのかを決める重要な機会です。すべての市民が、戦後日本の「戦争しない国」をつくってきた憲法の役割に改めて思いを致し、安倍改憲を許さないという声を上げましょう。

草の根からの対話と宣伝を広げ、「安倍9条改憲NO! 全国市民アクション」の提起する3000万署名の運動を大きく成功させましょう。



都政にも国政にも小池さんはいらない

小池さんという人がどんなひとなのか探ってみました。過去には核武装も十分あり得るという発言がありました。国家に依存する国民は切り捨てる、つまり福祉、社会保障の否定、韓国人学校（納税者であるれっきとした在日都民の子弟が通う学校）への土地貸与の撤回、関東大震災の朝鮮人虐殺犠牲者への追悼を拒否、ヘイトクライム肯定などの発言もありました。都政では情報公開の徹底を政策に挙げたにもかかわらず、豊洲移転と築地再開発の併存の方針を打ち出し、決定について記録は残さず、決めたのはAIで、つまりAIは私とけむに巻く一幕もありました。

立ち上げた希望の党では改憲、安保健制肯定を踏み絵に議員候補を排除し、耳障りのいい消費税増税の凍結、30年に原発ゼロを政策に掲げ大衆を取り込もうという考えなのでしょう。しかしこの政策の道筋は不透明な部分もあるから実現は困難ではないかと大方の意見。恐ろしいのは9条を含めた改憲、国防軍保持を公約に掲げていることで自民党と連携すればそれが一気に現実化してしまうことです。

小池さんは国政にも都政にもいりません！身びいき、国政を私物化、北朝鮮の脅威を国民にあおって軍備拡大を狙う安倍さんも勿論いりません。

(代田5丁目・日暮 恵子)

「9・30 世田谷区民集会&ピースパレード」と政治状況

国会が大きく動く中での区民集会でした。

9月28日、安倍首相は臨時国会の冒頭に衆議院を解散しました。野党4党は、憲法の規定に基づいて臨時国会召集を要求していましたが、安倍政権はこれを3カ月も無視しました。森友や加計学園問題の疑惑の真相解明を恐れ、また憲法9条に自衛隊を明記しようとする改憲の企みにたいする国民からの批判の広がりをおそれたのだと思います。世論と市民の運動が安倍政権を解散に追い詰めたのです。

一方で、市民と野党共闘にくさびを打ち込もうとする逆流も起こりました。戦争法（安保法制）を容認し、憲法9条を含めて改憲をすすめることを掲げ、安倍政権を補完しようとする動きです。安倍政権はすでに国民から信を失っており、この動きは霧散霧消するに違いありませんが、市民の運動でこの動きを押し戻すことが必要だと思います。

世田谷区民集会は、9月30日に「戦争させない！憲法守れ！」を共通のスローガンに掲げ、区役所前の広場で開かれました。「戦争させない！九条壊すな！世田谷連絡会」主催のもと、学生、市民、市民運動、労働組合、九条の会、婦人の会、政党（社民党、生活者ネット、民進党、共産党）、区長（メッセージ参加）など約250人が参加しました。

主催者、政党代表等から挨拶があり、「戦争法廃止、憲法9条の改憲を許すな、安倍政権打倒」に向け市民とともに奮闘する決意が述べられました。松原九条の会からは、憲法9条の意義を訴える発言もありました。

参加者一同、市民と野党の共闘で、「戦争させない、憲法まもれ」を現実のものとすることを決意しました。安倍政権を打倒するとともに、安倍政権を補完する勢力の台頭を許さない運動を進めていきましょう。今こそ、力をあわせてがんばりましょう。

集会後、参加者は区役所前から三軒茶屋までデモ行進を行い、「9条改憲反対、「憲法まもれ」を、力強く訴えました。
(代田2丁目・坂本 功)



集会等の紹介

11月3日（金・休日） 午後1時～ 創立9周年のつどい

朗読とトーク：栗原 小巻さん（俳優）

講演：石田 勇治さん（東京大学大学院教授）

「なぜ民主的憲法下のドイツにヒトラー独裁体制が生まれたのか？
今、ワイマール民主制崩壊の要因を考える

会場：東京都民教会 礼拝堂 世田谷区代田 5-35-2

連絡先 代田・九条の会

恒例！九条リンゴの販売



11月3日（金・休日） 午後2時～

安倍9条改憲NO！全国市民アクション 国会前大集会

主催：実行委員会（総がかり行動実行委員会、九条の会などで構成）

お願い：ニュースの原稿を募集しています。400字位で、お近くの世話人までお寄せください。

また、活動費用に充てるためのカンパをお願いします。

～ 私たちが住み、暮らし、働いているまち 代田で、

「日本国憲法第9条」をまもり、活かす活動をすすめましょう ～